



発行責任者

西川 晃二

【校長室より】 五高定時制「生活体験発表会」に思う～改めて「学力」とは～

7月12日長崎県営野球場にて対九州文化学園戦が行われました。結果は2-5で敗れたものの、実に内容の濃い試合展開でありました。勝利も十分に期待できる試合であったと思います。終了後、悔しさに泣き崩れるナインに対してかける言葉がありませんでしたので、この紙面にてねぎらいたいと思います。野球部の諸君は、早朝から学校の清掃活動に取り組んでくれています。また、地域の人や都会へ出た同窓生からは、何度となく「あいさつ」がすばらしいと賞賛されてきている生徒たちです。そのような生徒たちであつたればこそその清々しい試合でした。部活動生が日々の活動でどのような姿を見せるかで学校の姿は彷彿されます。その意味では部員一人ひとり、そして指導監督をされる先生方に感謝の気持ちで一杯です。

17日には、五高定時制の「生活体験発表会」がありました。全日制の生徒や保護者にとってはなじみ薄いかも知れませんが、この「発表会」は県大会、全国大会へとつながる意見発表会なのです。その発表原稿は「誇りある青春」として記録集が出されています。苦難や悲しみを乗り越えて、定時制高校という場で懸命に努力している生徒たちの姿を知ることができます。そして、聴く者（読む者）に「学ぶこと」や「生きること」の意味を改めて考えさせ、深い感動と勇気を与えてくれます。常々、全日制の生徒たちにも聴かせたい、知らせたいと思っていますところです。

4年前の新聞記事に久保ツネ子さんという方の記事がありました。彼女は、家が貧しく高校に行けませんでした。62歳を過ぎて、体調を崩し入院生活を余儀なくされた際に、病床で「このままの人生では後悔する」と考え、諫早高校定時制の門をくぐります。そして、高校では無遅刻、無欠席。3年次の通知表で10科目のうち半分で最高評価をもらったのが自信につながり、大学進学を決意。社会人入試で長崎ウェスレヤン大学社会福祉学科に見事合格。夢は「介護福祉士の資格を取り、自分なりの社会貢献ができれば」と決意している。という内容でした。

彼女は諫早高校定時制の生活体験発表会の代表者でした。その発表原稿を一部紹介したいと思います。

踏まれても踏まれても

根強く生きよ道野辺に

中学校を卒業するとき、先生が書いてくださったのが、この言葉でした。

それから15歳で働きに出た私を、先生の言葉はずっと励ましてくれました。父の病気で家に呼び戻され時も、母や兄弟の面倒をみながら諫早で仕事を探した時も、やっと洋裁の仕事で食べていけるようになった時も、「踏まれても踏まれても……」と心で唱えながら、ここまでなんとかやってこられた気がします。

洋裁で40年以上勤めたお店が店じまいすることになったとき、私は62歳になっていて、お店と一緒に定年退職しました。ところが、ぽかんと穴があいたように、私の中に何もなくなってしまったのです。それまでは昼間は店で、夜は家に持ち帰って洋服を仕立て続けて、夜遅くまで、日曜日祭日も休むことなく仕事をしてきたのですが、その無理がきたのでしょうか、調子が狂ったのでしょうか、急に何も食べられなくなってしまい、20kgもやせてしまいました。調べてもらってもどこも悪いところは見つからず、2回ほど入院をして、点滴だけの生活が1ヶ月も続きました。

私はこのままでは駄目だ、このまま歳を重ねていっては、あまりにむなしすぎると思いました。そのとき以前職場で「どうして高校に行かなかったのか」とよく聞かれたことを思い出したのです。そして、退職間際に自動車の運転免許を取りに行ったときのことも思い出しました。自動車を運転するのも、交通法規を覚えるのも初めてだったけれども、そのドキドキする経験が、そして新しい友達ができるのが、とても楽しかったのです。ひらめくように「ああ、今から高校に行けるのだろうか」と思った頃から、体も快方に向かっていったように思います。

以上が、ツネ子さんが発表した内容のほんの一部です。

「学ぶ」とは一体どういう所為なのだろうか。「学力」とは何なのだろうか、と17日の生徒の発表を聴きながら、問い続けている自分がありました。教科を学ぶことが学力、教科力であることも確かではあります。それが真の「学力」といえるのだろうか。かつて「あこう風のたより」に書いた記憶がありますが、改めて「学ぶ力」とは、「生きる力」「生き抜く力」ではないのだろうか、としみじみ思った次第です。

【寮大掃除・避難訓練】（6月27日）

考查最終日の午後、寮の大掃除と避難訓練を行いました。寮の大掃除を14:30から1時間半、生徒・教職員で行いました。通常の掃除区域だけでなく、食堂の床の拭き掃除や粗大ゴミを出すなど、普段は出来ないところまで掃除を行い、見違える程寮がきれいになりました。

また大掃除の後16:10から、自衛消防訓練を行いました。避難訓練だけでなく、模擬通報や消化器の使い方の講習、避難梯子の確認も行うことができました。また、3名の寮生に水消火器による模擬消火活動も行いました。消防署職員の方から講話もしていただき、寮生のみなさんの防火に対する意識も一層高まったようです。



【五高祭テーマ発表】（6月17日）

今年度の五島高校文化祭（通称：五高祭）のテーマ発表が6月17日（火）に行われました。テーマ発表のコンセプトは「全員でテーマと向き合う」でした。

テーマは、『絆（わ）～橋の向こうに踏み出す一歩～』に決定しました。このテーマは昨年度のテーマ『希望（みち）～歩みを止めるな今の自分』の精神を引き継いでいます。希望を持って歩き出した「私たち五高生」が次に目指すのは仲間作り。仲間と一緒にいることで、自分が存在している意義を見出し、仲間と一緒に希望溢れる未知の世界へと一歩を踏み出す。五島高校全体を強い絆で結び、全員が五島高校の一員であることを誇りに、そして喜びに感じることができる。そんな願いがこのテーマには込められています。今年度の実行委員は、数多くの実行委員会を開きテーマに真剣に向き合ってきました。自分たちが決定したテーマを全校生徒に共有したいという強い信念を持ってテーマ発表を企画しました。映像、照明、音響等を駆使しながらも、主役はやはり「人」です。実行委員が様々な角度からテーマを表現しました。最後にはテーマに関する象徴的なアート・パフォーマンスをし、実行委員長である大村美優ジンさん（2-5）が想いを語り、発表を締めくくりました。

現在、文化部や各クラスがそれぞれの出し物や展示の企画・準備を進めています。今年度も全校企画（モザイクアートなど）や実行委員企画などを準備しています。今年度の五高祭にもご期待ください。

絆
わ
橋の向こうへ
踏み出す一歩

【吹奏楽コンクール壮行式】（7月18日）

7月18日（金）、吹奏楽部の壮行式を行いました。今年は3年生13名、2年生9名、1年生19名の、総勢41名で、課題曲Ⅲ『斎太郎節の主題による幻想』と自由曲『マゼランの未知なる大陸への挑戦』を演奏しました。吹奏楽部は毎年7月末に行われる吹奏楽コンクールで金賞をとり、九州大会に出場することを目標としています。部員同士音楽に対する意見の食い違いでぶつかりあったこともありますが、同じ目標に向かって切磋琢磨できる環境に感謝しています。本番は、現在のメンバーで演奏できる最後の機会となります。悔いが残らないように五島高校吹奏楽部のモットーである「心に響くサウンド」を目指したいと思います。応援の程よろしくお祈りします。



【体育祭テーマ発表】（7月4日）

7月4日（金）に、平成26年度体育祭テーマ発表が行われました。3学年の各クラスより体育祭実行委員を募り、実行委員長の山田新一郎君（3-3）を中心に企画・運営を行い、『躍動～燃やせ闘志 輝け笑顔 起せ旋風～』のテーマ発表が行われました。その後、各団の先生方の協力を得ながら、各団の団長の自己紹介を含めたボールキャッチゲームというイベントで団の色決めも行い、9月7日の本番に向け、準備が進んでいるところです。

躍動
燃やせ闘志 輝け笑顔
起せ旋風

【全国大会への抱負】 写真部 3年 樽角 奈々美



12月に行われた長崎県高校写真展で賞をいただきました。その結果、7月27日～30日に茨城県つくば市で行われる全国総合文化祭の写真部門に参加させていただくことになりました。大会期間中は、写真に関する講演会、全国の写真部のみなさんとの交流会、撮影会などが行われます。他県の高校生と意見を交わし、交流を深めたいと思います。全国総文祭に参加するという貴重な経験を通して、今後の学校生活がさらに充実したものになるように多くのことを学んできたいと思います。

【マリンスポーツ実習】（7月2日～3日）

7月2日（水）から3日（金）の日程で、玉之浦小浦海水浴場でのカヌー実習（玉之浦ブルーーツーリズムクラブの御協力）やさんさん富江キャンプ村での遠泳実習、マリンスポーツ、飯ごう炊さん、普通救命講習（富江町公民館・五島市消防署の御協力）などを実施しました。



生徒たちは、次の行動予定を把握し、今自分がしなければならないことを常に考え、行動に移すことができました。生徒たちは自然の雄大さ、仲間と協力して生活することの大切さを知ると同時に、さまざまな活動をやり遂げた時の達成感を味わうことができた素晴らしい実習であったと確信しています。これらの実習を実施できるのも地域の方々を始め、多くの協力や援助があつてのことです。本当にありがとうございました。

【衛生看護科1年生施設実習】（6月30・7月1日）

6月30日7月1日の二日間、リハビリセンターふくえと聖マリアの園において衛生看護科1学年の施設実習を経験しました。

実習初日、緊張のため会話をすることができませんでした。時間が経過すると共に、高齢者とのコミュニケーションの取り方がわかり、積極的に話しかけることができるようになりました。食事介助や排泄の援助では、入所者様に「ありがとう」と声を掛けていただき、感謝される喜びを感じることができました。しかし、反省すべき点もたくさんあります。食事介助や排泄介助など、校内実習で行ったにも関わらず、上手に行うことができませんでした。今回の反省点に対して、これからの授業や校内実習の取り組みを更に真剣なものにし、後期に行われる実習にむけ頑張りたいと思います。



【アルマス先生離任式】

7月18日、本校のALTである、アルマス・レイマン先生が長崎北高等学校にALT兼、PA（県のアドバイザー）として転任されることになりました。アルマス先生は本校に3年間勤務され、授業のみでなく、お昼の放送、地域の行事や夕焼けマラソン、上五島でのハーフトライアスロンに参加するなど多くの面で精力的に活動されました。転任を聞いた生徒達は寂しそうな様子でしたが、新天地での活躍を本校職員生徒一同願っています。3年間お世話になりました。



第1回校内競技大会結果（7月15日）

| 男子 | | | 女子 | | |
|-----|-------|------|-----|------|------|
| 種目 | 優勝 | 2位 | 種目 | 優勝 | 2位 |
| バレー | 3年5組 | 3年1組 | バレー | 3年4組 | 2年5組 |
| 卓球 | 3年6組A | 3年5組 | 卓球 | 1年3組 | 2年1組 |

【あこうセミナー】（7月1日）

7月1日（火）の6・7校時に1年生普通科で「あこうセミナー」を実施いたしました。これは毎年、総合学習の一環として行っており、医療系の保健師・理学療法士や行政関係、法律関係、海上保安庁などの14分野から、地元で活躍されておられるの方々をお招きして、その職業について話をさせていただくというものです。特に普通科普通コースでは7月に文理選択を控えているからか、希望分野の話を真剣な表情で聞いていました。

今年度は新たに支局員として五島在住の新聞社の方に講演をいただきました。文系を希望する生徒の職業観を広げるためです。

生徒の感想文には「文理選択を真剣に考え、自分の夢に向けて間違いのない選択をしていきたい」「今回の講演を聞いて、この職業に就きたいと思った」などと書かれており、職業への興味・関心や進路意識を高めるよい機会になりました。

【全国大会出場の抱負】

新聞部 2年 橋本 千裕

7月27日から7月29日まで行われる、全国高等学校総合文化祭（茨城県）に参加します。この大会では、講習会や茨城県各地の取材を行い、交流新聞を作成します。全国の新聞部の仲間と共に活動し、たくさんの刺激を頂いて帰ってきたいと思えます。そして、この貴重な体験を今後の五高新聞に活かす事ができるよう、しっかりと取り組んで来ます。



「習慣化の力」

1 学年主任 瀧上 透

「僕がどうして毎日練習をやるか？その理由は簡単です。いいときの状態ってすぐに身体が忘れるじゃないですか。それを忘れないように毎日やるのであって、それ以外の何物でもありません。継続は力なりなんです。」これは、イチロー選手が雑誌のインタビューで「どうしてあれだけ熱心に練習するのですか？」という質問を受けたときの答えです。アテネオリンピックの女子マラソンで金メダルをとった野口みずき選手は、毎日30キロ走ることが日課だったそうです。彼女にとっては走らないことのほうが苦痛だったのです。この夏、毎日持続させる日課を紙に書き出し、机の前に貼っておこう。ユメタンを朝晩1回ずつでも数学の問題を毎日5問ずつでも何でもいい。これを1年間持続させれば強烈なエネルギーとなるでしょう。小さなことをこつこつやることの中に快感を求めよう。そうすれば止めることのほうが苦痛になり、後に驚くほど大きな結果に結びつきますよ。

「主人公」

第2 学年主任 久保田幸成

私は高校時代の友人の影響で映画を好きになった。最も影響を受けたものは「ショーシャンクの空に」という映画で、あらぬ罪を着せられた主人公「アンディ」が、様々な手段を用いて刑務所を脱獄するという話だ。彼はどんな環境下に置かれても、自分らしさを失わない。その場に応じて今どうしようもないことには無理に抗おうとせず、しかし自分の信念は曲げず、長時間かけて綿密なプランを実行していく姿は本当にかっこいい。私は心のどこかで彼の生き方を理想にしているのかもしれない。

このように私達人間は、映画、漫画、小説、ドラマなどの「主人公」に自分自身を投影し評価する。それは現実でも同じだ。友人との会話、親とのやりとり、部活動でのアドバイスなどで、多様な「主人公たち」に触れている。そして自分自身も「主人公」として誰かに影響を与えている。「さだまさし」の歌『主人公』にこんな歌詞がある。

♪ あなたは 教えてくれた 小さな物語でも
自分の人生の中では 誰もみな主人公
時折思い出の中で あなたは支えてください
私の人生の中では 私が主人公だと



普段あまり気付かないことだが、みんなが自分物語の「主人公」になる。苦勞も失敗もすべては通過点であり、そういうときは周りが支えてくれるものだ。これから夏に向けてどんなストーリーが迎えてくれるだろう。

【インターハイへの抱負】

柔道部

2年 戸野本 幸輝

8月4日に千葉県成田市で行われる南関東インターハイ柔道競技の100kg超級に出場します。長崎県の代表として、また五島高校柔道部のプライドをかけて、攻撃柔道を心がけ戦いたいと思います。1回戦を突破し、勢いをつけて上位進出を目指します。最後に、全国大会出場にあたり御指導をいただいた先生方や応援をいただいた地域の皆様方への感謝の気持ちを胸に、精いっぱい頑張ります。応援よろしく願いいたします。



【全国大会への抱負】

百人一首カルタ部 3年 千代田 紗希

全国高等学校小倉百人一首選手権大会と、全国高等学校総合文化祭（茨城大会）に参加します。この大会は「かるたの甲子園」「文化部のインターハイ」と呼ばれる大会です。毎年出場していますが、予選敗退で終わり悔しい思いをしてきました。

しかし今年のメンバーは周囲から「今年度は弱い」と言われながらも、その悔しさを力に変えて、昨年秋の九州大会では過去最高の結果を残すことができました。部員同士の仲の良さと負けず嫌いさではどこの高校にも負けたいと思います。みんなで励まし合いながら、悔いの残らない試合をしたいと思います。再び過去最高の結果を残し、他県の代表に「まさか長崎が？」と思われるように頑張りますので、応援よろしく願いします。



【オープンスクール】（7月23日）

7月23日（水）に本校でオープンスクールを開催しました。約250名の中学生・保護者の方、そして先生方が島内・外から参加していただきました。ビデオによる学校紹介、学校説明の後、衛生看護科は、科の説明、体験実習・施設見学、普通科は進路指導部からの説明、体験授業を行いました。その後、生徒による部活動紹介、そしてコンクール直前の吹奏楽部に演奏をしてもらいました。また今年もオープンスクールの運営は、昨年本校のオープンスクールを見に来た、高校1年生からボランティアを募り、手伝ってもらいました。同じ中学校出身の高校生との座談会である「先輩と語ろう」では、和やかな雰囲気の中、中学生のみなさんのたくさんの疑問・質問に高校生が一生懸命に答えていました。参加いただいた中学生のみなさん、保護者のみなさん、本校のオープンスクールはいかがだったでしょうか？きっと五島高校の良さが伝わったと思います。中学生のみなさんの入学を心よりお待ちしております。

